

センター便り

江戸川区口腔保健センター

Newsletter

〒134-0013 東京都江戸川区江戸川5-14-4 Tel/03-5667-8020 Fax/03-5667-8022



日ごろ、センターの運営にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。今号は、過日開催されました関連学会の参加報告です。いずれも活気に満ち充実した学会総会であり、今後のセンター運営に活かしていきたいと考えております。

口腔保健センター運営実施委員会

挨拶

副所長 川野 浩一 先生

本年6月に新たな船出を迎えた藤執行部のもと、口腔保健センター担当副会長を拝命し半年が過ぎようとしております。猛省するところではございますが、就任前までは私自身、関わる部分がなくセンターそのものの存在が距離を置いたものになつておりましたが、初心に立ち返り一から勉強させていただく所存で役務をお受けいたしました。江戸川区行政のお力添えはもとより鈴木事務長、外園室長他センター職員の皆様はじめ本会の今井担当理事、金栗委員長、協力医並びに委員会の先生方のご理解ご協力、又何より心強い深山教授、植田教授を中心とした多くの大学関係の先生方のバックアップに支えられて微力ながら今後のセンターの更なる発展の一助になればと思っております。

今後公的な医療機関という性格上一般の診療所とは違った制約がある中、皆様には無理難題を押し付けるような場面も多々あるかと思ひますが、これも潤沢なるセンター運営上必要事項と捉えていただき、同時に皆様の「意見を真摯に受け止め快適な就労環境を構築するべく努力をしていきたいと思っております。」

関連学会参加報告

日本摂食嚥下リハビリテーション学会

平成27年9月11日(日)、12日(金・土)、第21回 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会が国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都にて行われました。今回は、本会会員と江戸川区口腔保健センター職員合わせて7名で参加しました。

今大会は「広がりゆくリハビリテーションニーズの中で摂食嚥下を考える」と、昨今の課題である社会保障の改革での超高齢者社会の到来を背景においたテーマでした。

リハにおいては急性期医療における早期リハビリテーションの充実と早期在宅復帰、それに続く地域での生活期リハビリテーションの重要性とかがりつけ医の役割が強調され、地域においても質の高い対応が求められてくる事や、地域包括ケアシステムや大規模災害時におけるリハの役割も注目されるなど、益々広がりを見せています。

リハにとつて最も重要な領域の一つである摂食嚥下リハを担っているすべての方々に、広がるニーズを考えていただくとう大会の演題も「地域包括ケアと摂食嚥下障害―高齢化社会におけるリハビリテーションと摂食嚥下―」「誤嚥性肺炎患者への地域連携」「災害と摂食嚥下リハビリテーション」などのシンポジウムが

企画されていきました。ポスター発表では、「地域包括ケアにおける摂食嚥下両方の実態―老健併設歯科診療所―」「開業歯科医に寄せられる食、支援への期待―介護が求める診療所の役割とは?」などが企画されていて、地域医療に従事している私たちにとつて興味深く入ってきました。

また、多くの方が自由に活発なディスカッションをしていただき実り多き学術大会にという主旨でシンポジウムやパネルディスカッションに企画者からのメッセージを入れた質疑応答を設けたり、ポスター発表もフリーディスカッション形式で、ワンディッシュとドリンクと共にという形式で行われ質疑や名刺交換が活発に行われていました。今回は女性の発表も大変多く、一層にぎやかな大会でした。

今回、江戸川区での発表はなかったのですが、地域医療の実践上の参考となる演題や、多くの方々との交流での意見交換や議論は大変有意義なものとなりました。この経験をもちかえり、センター事業に生かす努力を続けて参りたいと思います。

(清水畑 倫子 記)

平成28年度 学会開催日程

日本摂食嚥下リハビリテーション学会
H28.9.23-24 (新潟・朱鷺メッセ)

日本障害者歯科学会
H28.9.30-10.2 (埼玉・大宮ソニックシティ)



日本障害者歯科学会
平成27年11月7日
名古屋・学会場にて



日本摂食嚥下リハビリテーション学会
平成27年9月11日
京都・学会場にて

日本障害者歯科学会

第32回日本障害者歯科学会学術大会が11月6日(金)～11月8日(日)まで名古屋国際会議場にて行われました。この学会は医療実態、地域医療、麻酔、障害者治療の症例報告、口腔ケアの取り組みなど多岐にわたり、各地域の歯科医師会から多数発表がなされています。また、保健師や栄養士など多職種の方々が参加していますが、歯科衛生士の参加が多いのも特徴です。

今回の大会テーマは「治療から予防へ そして支える歯科医療へ」ということでした。近年、障害のある方が歯科治療を受けることができる環境が整いつつあり、齲蝕や歯周疾患を再発させないための専門的口腔ケアや疾患のない早い時期からの歯科医療との関わり的重要性についても、社会的な理解が徐々に深まってまいりました。さらに、多職種との連携において歯科医療がスペシャルニーズのある人とそのご家族の

QOL向上に果たすべき役割が大きいこともわかってきました。そこで、次のステップとして障害者歯科治療は何かという思いで大会のテーマを決めたようです。

江戸川区歯科医師会からは齋藤会長、石川前会長を含め18名が、口腔保健センターからは外園室長、神谷先生、歯科衛生士2名の総勢22名で参加しました。土曜日に、田村朗先生が「当口腔保健センター開設10年の歩みと課題」と題して発表

を行いました。センターは開設11年を迎え右肩上がりで患者が増えている状況、口腔ケア研修が10年経っても毎回定員を満たして、特にアドバンスコースが好評であること、また、課題として今後介護現場と歯科医師との連携がより強くなるシステムづくりが必要であることについて報告しました。他地区との意見交換もあり、有意義な発表になりました。その後、恒例の打ち上げでは、名古屋飯を堪能しカラオケで盛り上がりました。次の日は外園先生が「当口腔保健センターの高齢者歯科診療の実態」と題して発表がありました。当センター高齢者患者の初診割合は年々増加していること、全身疾患の内訳、受診動機、処置内容等、また、患者増加の現状に対応するために逆紹介等システム構築が急務であり、地域の歯科医療機関とのさらなる連携が必要であるとの報告がなされました。

2日間ともランチオンセミナーは興味深いもので、看護師の口腔ケアに対する取り組みが進んでいることに驚いたとの会長から報告を受けました。今回の学会はなるべく同じ時間に講演を重ねないような工夫がされていましたが、そのおかげで聞きたい講演が混んで聞けなかったのが少し残念でした。来年は大宮で開催されるようです。お近くだと思えますので皆様多数ご参加よろしく願い致します。

(金栗 勝仁 記)

センタースタッフ紹介

神谷 清 先生



大上沙央理先生の後任として、平成26年12月より勤務させていただいている神谷清と申します。

平成16年に奥羽大学歯学部を卒業後、東京医科歯科大学歯学部麻酔・生体管理学分野に入局し、歯科治療中及び口腔外科手術中の全身管理を専門としてきました。今までも、医局の他の関連施設で障害者・有病者の歯科治療の経験をさせていただきましたが、センターには様々な患者さんが来院され、また外園先生や協力医の先生方の診療を見させていただく事ができ、とても勉強になりました。

このような機会を与えてくださった関係者の皆様には、とても感謝しております。

患者さんに安心と喜びを与えられるように精進していきたいと思しますので、宜しくお願い致します。



今年度は新しい歯科衛生士が6名入職致しましたのでご紹介致します。

火曜日：幸喜かおり・遠山明日香

木曜日：角田幸子・西友美

土曜日：高橋文菜・奈良亜弓



火曜日チーム
(左) 幸喜かおり
(右) 遠山明日香

火曜日は主に全身麻酔、静脈麻酔下での診療を中心としており、歯科麻酔医のアシスタント業務を歯科衛生士が担当する事も多くあります。



木曜日チーム
(左) 島野幸子
(中央) 角田幸子
(右) 西友美

木曜日は、感染症も含め、最も患者数が多く、診療ユニットもフル稼

働いています。年5回は口腔ケア研修会(ベーシックコース)があり、木曜日のスタッフで実習を担当しています。新しいスタッフも、今年度から講師を担当しています。



土曜日チーム
(左) 高橋文菜
(左中) 奈良亜弓

土曜日は発達期障害の患者さんが多く来院し、週の中で一番賑やかになります。高齢者とは異なる対応が必要となるため、歯科衛生士間でも常に情報交換をして対応の向上に日々努めています。

新メンバーを迎えて早くも半年が過ぎました。当初は障害者の対応が判らず、戸惑いも見られましたが、今では自信を持って対応することが出来るようになりました。今後もこのメンバーで一緒に頑張っていきたいと思えます。スタッフ一同今後とも宜しくお願いいたします。

(岩淵 晴美 記)

